別紙様式

非主食用米（飼料用米等）に係る普及指導活動手法

都道府県名：　愛媛県
普及指導センター名：農林水産研究所普及情報室

【地域の概要及び取組の背景】

愛媛県では、飼料価格の高騰を受け、養鶏農家と耕種農家が連携し、平成20年5月に、Ａ地区で1.0haの飼料米を初めて試作した。

また、農林水産研究所では平成21年から非主食用米試験を計画・実施するため、予備試験として、飼料用米について品種比較試験と湛水直播栽培試験を約40aで実施した。

【取組の具体的な内容・成果】

１　取組の概要

Ａ地区では、養鶏農家と耕種農家の間で1.0haの飼料用米を試作した。

２　特筆すべき取組内容

（１）非主食用米の生産利用に向けた関係機関等による推進体制の整備、農業者等に対する意向把握

農家の自主的な取組であったことから、現時点ではJA、町等の関係機関の連携による飼料用米の推進体制は整備されていない。

普及及び試験研究機関では、耕種農家の栽培する飼料用米の生育状況を把握するとともに、需要者である養鶏農家に対し飼料用米の利用希望の聞き取りを行った。

（２）非主食用米の需要者（加工業者、畜産農家等）の確保

需要者に向けた取組みとしては、畜産農家に対して、法人協会の研修会の場を活用して飼料用米の紹介を行った。

なお、畜産農家が飼料用米を利用する基準は、飼料トウモロコシ価格が30円/kg以上になった場合である。

（３）非主食用米の低コスト多収生産に向けた栽培技術等の実証

農林水産研究所では、飼料米品種比較と湛水直播栽培試験を43aで実施した。収量は平均収量が550kg程度と低く、栽培方法の検討が必要である。

（４）その他

Ａ地区における飼料用米栽培は、不耕起乾田直播で行われたため、雑草等により、実際に収穫できた面積は0.3ha程度に止まった。収穫した籾についても、給与するには少ないため、次年度の種子用として貯蔵する。

【今後の課題、予定等】

・２１年度から、農林水産研究所農業研究部では、非食用米における品種特性と低コスト生産に関する試験を実施する予定。

・養鶏研究所では、飼料用米の給与が鶏卵品質に及ぼす影響について検討予定。